

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	2ユニット
所在地	宮崎県日向市大字富高6957番地1		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&liyosyoCd=4590600070-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年7月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より地域ステーション永寿園として、介護方針を3点作成し、その中より「明るい笑顔と気持ちのよいあいさつであなたの気持ちに寄りそいます！」を目標にし支援している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方との挨拶は意識して行い、行事には積極的に参加している。保育園児が若宮公園に訪れた時に交流することができた。昨年は民生委員の協力で立ち番を行い、楽しみにされているご利用者がいた。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに3～5名のご利用者が参加している。昨年の11月に場所を提供し、22名の地区方々が訪れ、交流する中で「認知症になっても普通に話ができるのですね。」と言われていたのが印象的でもっと啓発活動が必要かと思った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催している。ひむかてらす便りを入所から取ってある。捨てられない」とうれしい言葉やヒヤリハットと事故報告の違いについての質問やヒヤリハットが25年度より減ったことについての意見が出されていた。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日向市高齢者あんしん課の担当者に運営推進会議の一員として参加してもらっている。ご家族に介護保険の改正について説明してもらった時は色々な質問が出され、身近に感じてもらった。サービスで不明な時は担当者に相談して情報を得ている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修を行っている。今年度は具体的に水分量が少ないことで点滴が必要となり、点滴のために両手の拘束をすることで認知症がひどくなることもある。そのためにも日頃より、水分をたくさん摂ってもらうケアを個人にあわせて行うことの大切さを学ぶことができた。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても毎年研修を行っている。また、外部の研修にも参加させてもらい、意識を高めている。言葉遣いについては、職員同士気をつけている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用されている方はいないが、権利擁護についても研修を行っている。今後、成年後見制度について情報を提供していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護保険の改正に伴う料金変更について、ご家族に分かりやすいように料金表を作成し説明した。疑問点などいつでもお話しいただけるよう面会時に声かけを行い信頼関係を築いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に、ご家族の意見が出しやすいようにしている。また、面会時に希望や要望をお聞きするようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年3回職員と面談を行い、要望や意見を聞いて上司に意見をあげるようにしている。働きやすい職場づくりを心がけている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに面談を行い、目標を相談しながら立てている。また、資格取得のための支援を行ったり職場環境の整備などを行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	永寿園全体研修会や事業所での研修を定期的に行い、学びのレポートを提出している。仕事で参加できない職員に資料等で伝達してレポートを提出している。外部の研修にも積極的に出してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修に参加し、他の事業所のサービス内容などについての情報収集を行い、サービスの質の向上につなげている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者が中心に、積極的に声かけを行い、ご本人の気持ちに寄りそい、顔なじみになり、落ち着いて過ごせるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規契約時にご家族の不安や要望をお聞きし、ご家族と一緒に落ち着いて生活できるように支援していきたいことを説明している。様々な機会にご家族とお話し、信頼関係ができるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の要望と状態を確認し、ご家族に相談しながらサービスを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のできることは継続して行っていたり、また、できそうなことを一緒に行いながら、ADLの維持に繋げている。やさしい言葉かけを心がけ、同じ目線で話すようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の要望や希望をお聞きするとご家族に会いたいという気持ちが強いので、ケアプランに面会や外出を目標に入れて協力していただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	県外のご家族が帰って来た時に送迎を行い、一時帰省されご家族と過ごされている。また、ご家族の協力で、馴染みの美容室やふるさとまで外出していただいている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでのソファに座る位置は親しくされている方向士で座るようになってきた。洗濯物たたみやアクティビティと一緒に参加できるように声かけを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入所されたご利用者に時々会って状態の報告をいただいたりしている。また、入院されたご利用者のお見舞いやご家族に様子を伺ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや要望を担当職員中心にお聞きし、把握に努めている。思いや要望をご家族とも相談しながら、叶えられるように支援している。把握が困難なご利用者はご家族や職員の思いを出し合い、支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若いころの写真やご家族に若いころの様子をお聞きしてより深く知るようにしている。昨年入居された方は裁縫の仕事をしていたとのことで、一緒に雑巾縫いやボタンを付けていただいたりしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでご利用者の状態の報告し、情報を共有している。また、連絡ノートを活用し、情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望をお聞きした上で担当職員がアセスメントを行い、介護計画担当者が介護計画書を作成し、ミーティングで話し合い、ご本人、ご家族に説明し、同意を得ている。モニタリングは毎月行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録し、月1回のミーティング時に月のまとめとモニタリングを行いながら、介護計画書の見直しに活かしている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のグループホーム、小規模多機能ホームと3か所合同で遠足を年3回行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立ち番を地元の民生委員の協力で一緒に行うことができ、楽しみにされていた。また、幼稚園、保育園児との交流会があり、楽しまれていた。読み聞かせボランティア、高校生のボランティアが月に1回、不定期に地元のアコーディオン演奏者が訪問している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の先生が月1回往診に来られている。また、地元の歯科の受診が多かった。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状態のことで何か気づいたときや気になる時は看護職員に伝え相談している。夜間の緊急時に連絡を取り、連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご利用者の情報の提供を行っている。入院中はお見舞いに行っている。状態の報告をご家族や病院側より受けた。退所後であったが、状態が悪い時は病院側よりご連絡いただいた。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態が徐々に落ち込んでいたご利用者の状態をその都度ご家族、病院と相談しながら食事が摂れない状態時に入院となり、2週間ほどで永眠されました。ご家族からは最後までありがとうと言葉をいただいた。食事と水分がなかなか摂れない方は食事の工夫など行っただが、ご家族と相談し、入院となった。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の訓練を定期的に行い、実践につなげるようにしている。AEDも設置しており使用法の研修も行っている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画(台所火災想定、地震想定、夜間想定など)を立てて、月1回訓練を行っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人ひとりに合った言葉かけを行うようしている。特に排泄時の声かけや入浴時はプライバシーを損なわないように気をつけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉かけを行っていこうと昨年度取り組むみ、職員の意識改革ができたと思う。日常の暮らしの中で疑問文形で声かけることでご利用者に決めていただくようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態を把握し、希望に添えるように支援している。しかし、ご家族、職員体制の都合、天候などの状況によって実施できないときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と馴染みの美容室へ外出されている。また、馴染みの美容室に行かれていたが身体機能面で、むづかしくなったが認知症にやさしい美容室に変更し2か月に1度行かれている。洋服はほとんどのご利用者は自分で選んで着ている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ふきを取っては皮をむき、また、ご家族よりつわやこさん竹をいただき皮をむいていただいている。食事時に話題になり、話が盛り上がる時がある。また、玉ねぎなどの皮むき、食器洗いを手伝ってくれる方、テーブル拭きの方役割ができています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事の摂取量を毎食後チェックしている。水分量の少ない方はご家族と相談し、ヨーグルツペを提供している。2名の方は水分量をチェックしている。肉がだめな方は代替食を準備している。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声かけて行っている。十分できないご利用者には、状態に応じて介助を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握のため、チェック表へ記入し、必要なご利用者には時間をみて声かけを行っている。夜間はポータブルトイレ、トイレ、パンツから夜間だけ紙パンツ使用しながら個々に応じて行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	さつま芋を出してほしいとご利用者の要望で週3回以上は提供するようになり、繊維のある食材や水分を多めに摂取することを意識している。しかし、便秘の方もいて下剤で対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きに入浴していただいている。入浴時に下着を洗ったり、身体を洗える部分は洗っていただいたり個々に応じて行っている。湯船に浸かっているときはゆっくり会話できる時間として大切にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は部屋で休憩されるご利用者、ちょっとした時間に部屋でたんすの中を片付けられるご利用者がいるが、アクティビティ時にほとんどのご利用者がホールで過ごされている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬状況をまとめ、いつでも確認できるようにしている。薬が変更になった時は看護職員が申し送りや連絡ノートを活用している。誤薬が起こらないように2人で確認し、飲み込みも確認し、服薬後の袋も確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、玉ねぎ等の皮むき、食器洗い、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど、できることは行っていたりしている。また、誕生日はご本人の希望に沿って外食したり好きな料理でお祝いしている。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝希望者は歩行訓練兼ねて散歩したり、隣接する公園へ散歩している。毎週日曜日はドライブの日にしてその方の地区へ行ったり、季節の花を見に行ったりしている。食材の買い物、外食、温泉など希望に沿って計画し外出されている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が財布を持って、外食時は出している。他のご利用者は預かっているが、お金の心配をされるご利用者もおられ、聞かれることがある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されているご利用者がいて、県外の娘様より毎日携帯でお話されている。塗り絵などとしてはがきをおたしすることで、ご家族が喜んでいたので、続けていきたい。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、照明、温度、湿度はご利用者の希望や状況を観察し調節している。玄関周りの花、飾りは季節感を取り入れるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所ができているように感じる。気の合ったご利用者同士そばで会話したり、時には離れて座ったり、隣のユニットへ行かれたりして気分転換されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすやテーブル、いすなど自宅より持ってこられ、ご家族の写真を飾っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレが隣にあるが、部屋を出てわからず廊下を歩いていたりしていたため、トイレと大きく書いて、戸口に直角に貼ることでわかっていただいている。			